




## 【取組7-1】あいうえおからはじまる にほんごにゆうもん

運営受託: (公財)横浜市国際交流協会 

|       |  |
|-------|--|
| テーマ   | あいうえおからはじまる にほんごにゆうもん  |
| 講師    | 押野成美さん 中村美喜さん  |
| 日時・場所 | みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ 会議(研修)室<br>2025年(9/17・24, 10/1・8・15・22・29, 11/5・12・19) 10:00~11:30<br>全10回 |
| 対象    | ひらがな(文字)、あいさつ、日本語を基礎から勉強したい16歳以上の人   |
| 参加人数  | 講師:2人(延べ20人)<br>学習者:14人(延べ82人)<br>(国別:タイ1人、パキスタン1人、中国10人、バングラデシュ2人)<br>支援者:12人(延べ41人)        |

## 【事業概要・趣旨】



2024年度実施の地域日本語教室対象の実態調査での、「学習者の日本語レベル差が大きい」、「ほとんど話せない学習者への対応が難しい」、「日本語学習支援者の人手不足」等の南区の日本語教室や国際交流ラウンジからの回答から、YOKEが蓄積してきた入門初期学習者を対象とした教室実施のノウハウを生かし、みなみラウンジでボランティア支援者への支援体制の充実や実施方法への取り組みを考えながら、モデル的な日本語教室を実施した。

## 【目的・目標】

1. 学習者が本教室での学びを通して、日本語の仕組みを理解し日本語学習の楽しさを知ることと自律学習の意識につながり、地域日本語教室へのスムーズな参加、また、日本語学習への自信を持つことができ、今後の継続的な学習へつなげる。
2. 支援者が本教室に参加したことで、日本語学習支援の考え方ややり方に触れ、経験を得ることができ、今後の日本語学習支援活動における入門初期(A0)へのノウハウを学ぶ。
3. 本教室の実施により、南区域の日本語学習支援の仕組み作りの役に立てること。



## 【取組7-1】あいうえおからはじまる にほんごにゆうもん

運営受託：(公財)横浜市国際交流協会

## 【実施した事業プログラム内容】(抜粋 例:第3回)

| Can do    | お礼を言ったり、謝ったりすることができる。                                |
|-----------|--|
| この回活動のゴール | ・人にお礼を言ったり、謝ったりすることができる。<br>・ひらがな(な行・は行)が読める。単語が言える。 |
| 1 前回の復習   | 別れるときの挨拶   |
| 2 お礼の言葉   | ありがとうございます。ありがとう。お礼を言う場面のイラスト                        |
| 3 謝る言葉    | すみません(3つの意味) ごめん/ごめんなさい                              |
| 4 休憩      |  |
| 5 ひらがな復習  | さ行・た行  |
| 6 今日のひらがな | な行・は行 カード類を活用して丁寧に確認する                               |
| 7 学習記録記入  | ポートフォリオ記入  |

\*時間の目安：1.2.3合わせて約40分、5.6.7を合わせて約40分。(休憩10分)

## (解説)

今回の教室では、テーマを「自己紹介」に絞り日本語学習支援活動を実施した。日本語の仕組み、発音、文字学習に纏わる単語を時間内で覚えられる数に限定し、少ない単語の中でもやり取りを取り入れ、できる限り実生活に近い学習環境の設定で行った。結果、最終回で、学習者は家族構成の紹介や好きなこと(食べ物・飲み物)などを含めた少し長めの自己紹介をすることができた。文字学習では50音の「ひらがな」だけではなく、拗音・促音・長音を学習内容に入れた。学習者が文字や発音がわかるようになり、単語などを自力で読み、意味が分かるようになったことが学習の意欲にもつながったと考えられる。それ以外に日本語には「カタカナ」などがあることも紹介し、継続的な学習の必要性を感じたことと推察する。

## 【成果】

- (学習者)・日本語のひらがな、拗音・撥音・促音・長音を読み書きできるようになった。・自分のことを自分の言葉でやり取りを行う、地域での双方向の学習ができた。地域の日本語教室への参加にも意欲的で、教室の後半では、地域の教室に通う学習者もいた。学習者は休み時間ややり取りの時間でも、自分が必要と思う内容を、一生懸命スマホで調べたりメモを取る場面も多く、これらは自律学習につながる一つとみていいだろう。
- (支援者)・普段活動の中では見えない、互いの支援活動を俯瞰してみることができた。教室活動でのやり方を自分の教室で試すことを通して、日本語学習支援の適切な方法が何かを考えるきっかけになったと考える。
- (ラウンジ)来年度以降同様の教室を継続して実施できないか検討している。

## 【参加者の声】

今回の学習では、いくつかの日本語表現が印象深い。日本語学習の自信を高めるのに役に立った。(学習者。翻訳機使用)

教室活動を見せてもらい、とても貴重な意味のある体験だった。活動の工夫や学習者が飽きない活動の工夫など学びが多かった。(支援者)

## 【課題や今後に向けての改善点】

今回の入門初期教室は1つのモデルとして実施し、色々な経験を得ることができた。参加した学習者とサポーターとも満足度100%という評価を得た。この評価は、本教室の実施が両者にとって有意義な活動だったといえるだろう。入門初期(A0)レベルの学習者への日本語学習支援は横浜市の地域日本語教育推進のため、地域の様々な課題を解決していく上では、欠かせないと思われる。そのためには、各区のニーズや特徴について把握し、地域に合った支援を行うのが重要と考える。区内の多文化共生・国際交流の拠点を持つ国際交流ラウンジと、地域住民の主体的な取り組みである日本語教室との連携、協力を得ながら、外国人が抱えている「言語の壁」の解決のために日本語学習支援体制を充実していくようにしていきたい。今後、地域の日本語学習支援の在り方について模索しながら、学習者とサポーターの両者にとって楽しく、地域の多文化共生につながるコミュニケーションに焦点を当てた日本語学習支援活動や、地域日本語教室が学習者が学びたいと思うときに気軽に参加できる(戻れる)居場所的な場となる価値と魅力を発信していきたい。